



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第7巻第
5号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第7巻第5号). 泌尿器科紀要 1961, 7(5): 634-634

ISSUE DATE:

1961-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112130>

RIGHT:

編集後記

第49回日本泌尿器科学会は5月中旬金沢市に於て黒田恭一教授会長の下に行われた。その次第に就ては会員諸氏は既に御承知であるし、学術記事は日本医事新報の学会印象記にゆずり、茲にはそれ以外の事を記す。学会の前日、5月11日に種々の会議がとりまとめて開かれた。先ず午前10時、35年度の総合研究班の最終会議が催され、続いて36年度の研究班の最初の会議が行われた。午後、理事会と評議員会が催され、次で会食。その後、国際泌尿器科学会日本支部会が行われた。このように諸会議に1日を当てると、時間がゆつくりして討議も充分に出来てよい。理事の改選が行われたが、再任も更迭もあつた。来年は50周年の記念学会で、そのプランはシンポジウムを主とし、興味深い。多額の募金は新例である。評議員会に於ける会員の沈黙はいつもの事ながら遺憾である。国際学会への多数の出席者に旅費を等分配する事と次回を東京へ誘致する事に対しては私は反対を表明した。之に就いても沈黙者が多いようであつた。12日の午前は市内観光で、九谷焼かま元、卯辰山、兼六園等に旅情をなぐさめられた。例年ならば学会の時間中に行われるので都合がわるかつたが、今回はその点結構であつた。午後1時、いよいよ開会である。会場の北国講堂は、広さ、設備等、申し分がない。開会の辞を述べられる黒田会長の面上には輝くものがあつた。第2日は8時開始、会長の宿題報告の頃には、500名を収容する会場は殆ど満員であつた。会の運営は極めて円滑に行われた。これは演説者、発言者、座長、会場係等の協力によるものである。夜の懇親会は「つば甚」の大広間にて開催、参加者240名と云う盛会で余興の温泉太鼓は特に珍らしかつた。第3日も8時開始、正午に学会は終了した。午後からは天候に恵まれて、観光団が4班も出発した。私は2泊3日に亘り奥能登を心ゆくまで探勝した。

行く春や能登に詣でし古き寺

壺 青

バスガイドすこし日焼けて能登めぐる

壺 青

会長及び教室員の御尽力は筆に表わせない程で、まことに相すまぬ思であるが、参加者としては有難い事である（昭和36年5月）



横浜市大川井博助教授は北川溟博士の後任として日本医大教授に就任せられた。



購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. J. Urol., 45：527, 1941。
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集部が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。